

[シラス]

1. 経年経過及び平成22年7～8月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成21年は1,771トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しました。その後平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しましたが、平成21年は871トンまで減少しました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に108トンの水揚げで、前年の45%、平年の48%と前年・平年を下回りました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に205トンの水揚げで、前年の135%、平年の129%と前年・平年を上回りました。

2. 平成22年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年を下回り、志布志湾海域は前年を上回り、平年並みとなるでしょう。

(根拠)

西薩海域・志布志湾海域とも秋漁と夏期の降水量との間に強い正の相関が見られます。今年の夏期の降水量は西薩地区は前年は上回りましたが、平年は下回り、志布志湾地区は前年を上回り、平年もやや上回る状況でした。また西薩地区については直近の漁模様も低調なことから、西薩海域は来遊水準が低く、志布志湾海域は平年並みの来遊水準と思われる。

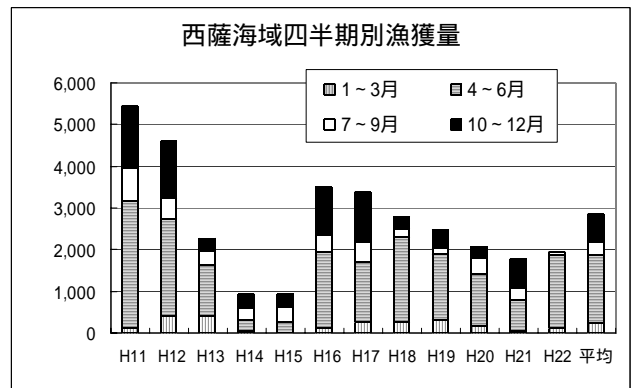
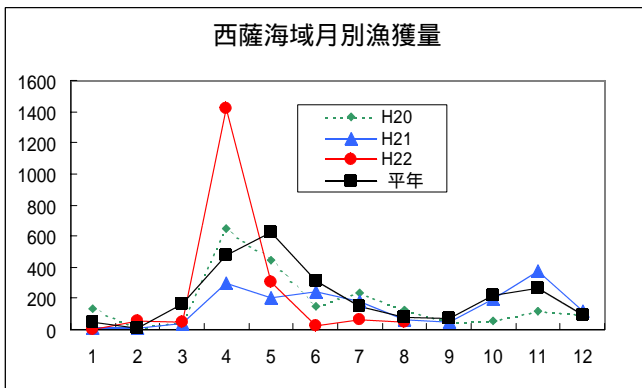


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年8月末までの水揚げ量を使用。

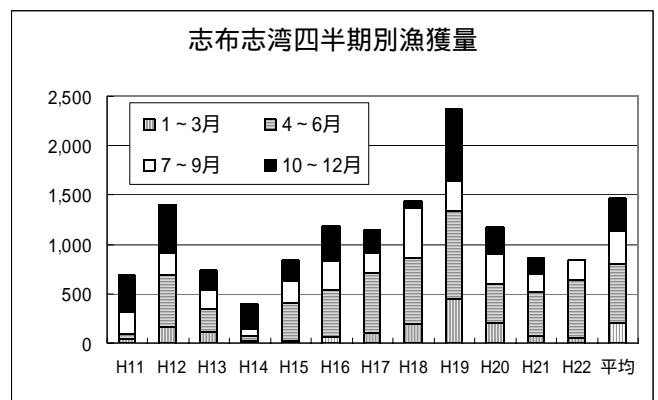
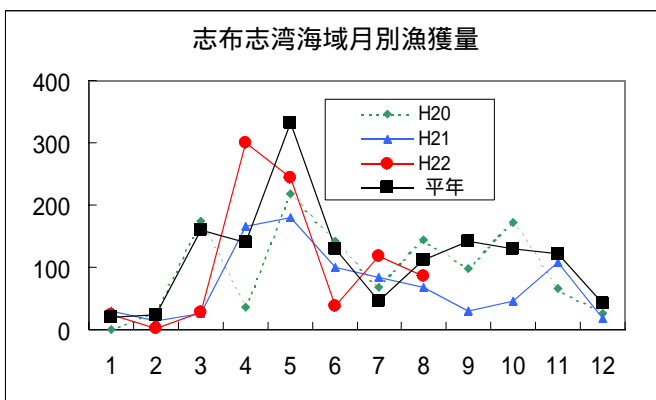


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成17～21年)の平均値(AV)、平成22年8月末までの水揚げ量を使用。